

いわさき民報

所行發
社報民さわい
番一八三話電地番一町田市平
日克輝千人行發報
除を日曜月但刊日
號十四部一円六月ケ一 價定

初の榮冠は鈴木氏へ

萩原氏立遅れに遂に敗る

平市の開票は六日午前七時から第一投票所たる第三國民學校で開始した。逸早く戦線を整備して駒を進めた鈴木氏三郎は終始優勢を示し、壓倒的得票を以て見事初代公選市長の金の的を射とめた。一方知識階から支持を得ていた萩原候補は立遅れがたゞ居り、折角の努力も空しく遂に敗退無念の涙を呑んだ事は大きな同情をひいている。

平市長開票結果

當選七三三票鈴木長三郎(民主黨)
次點四、〇七二票 萩原義雄(民主黨)

一、四一八票 大井川幸隆(社會黨)
投票總數一三、一三三票 有効投票一三、七二二票
無効 四〇一票

市知事開票成績

石原氏が優秀を示す

知事公選の開票結果は左の通り、平市中では石原氏が壓倒的優勢を示し、郡も石原氏と八百板氏が優勢を示した。

▲平の得票

- 五、二八一票 石原幹市郎
- 三、四九二票 中野 寅吉
- 二、二三三票 八百板 正
- 一、一三四票 江花 静
- 郡の得票
- 三四、三八八票 石原幹市郎
- 二三、四三八票 中野 寅吉
- 二六、八二一票 八百板 正
- 六、三〇五票 江花 静

町村長開票終る

四倉草野決戦投票へ

運命の日、きょう五日嚴重な監視のうちに即

兩町村は即時告示規定のこの難を免れた
通り来る十五日に決戦
投ひようを執行する尙
同じく決戦を豫想され
ていた好間村は鈴木榮
一氏が壓倒的に三千二
百五十三びようをかく
として大河原、根内、
叶多の三氏を倒した。

町村長當選者

- 泉村 當、櫻香田 勝記
- 次、阿部 東郷
- 渡邊村 (無投票) 永山貞秀
- 植田町 當、渡邊國之助
- 次、箱崎 義一
- 山田村 當、三三三 三郎
- 次、秋山 常衛
- 錦町 當、〇〇高木 武二郎
- 次、星 友太郎
- 勿來町 當、〇〇小松 賢
- 次、青田 目信次郎
- 上野村 當、三三三 久馬
- 次、野田 敬一郎
- 入野村 當、〇〇酒井 利雄
- 次、折笠 市
- 川部村 當、〇〇小野 五一
- 次、小野 敏らん
- 田人村 當、〇〇小野 庄一
- 次、小宅 長二郎
- 飯野村 當、〇〇永山 亮太郎
- 次、北郷 喜勝
- 野井村 當、〇〇永山 亮太郎
- 次、高久村
- (無投票) 鈴木 正一
- (無投票) 鈴木 正一
- 豊間町 當、〇〇馬目 常吉
- 次、鈴木 健雄
- 四家 健雄
- 江名町 當、〇〇近藤 貴二
- 次、金成 茂男
- 鹿島村 當、〇〇八代 義定
- 次、佐藤 米治
- 小名濱町 當、〇〇樋口 又七
- 當、〇〇大田原 憲太郎
- 次、中野 新平
- 湯本町 當、〇〇比佐 源造
- 次、大井川 正己
- 内郷町 當、〇〇山崎 龍亥
- 次、日野 定利
- 好間村 當、〇〇鈴木 榮一
- 次、大河原 茂平
- 神谷村 當、〇〇神谷 市郎
- 次、志賀 忠五郎
- 赤井村 當、〇〇吉田 満吉
- 次、羽賀 政雄
- 永戸 當、〇〇松崎 佐七
- 次、松崎 佐七
- 澤渡三阪組合村 當、〇〇永山 繁美
- 次、吾妻 六郎
- 大浦村 當、〇〇酒井 崇順
- 次、阿部 崇順
- 大野村 當、〇〇西山 恵一
- 次、木田 喜一
- 小川村 當、〇〇草野 虎伊
- 次、吉田 兼治
- 川前村 當、〇〇新妻 長吉
- 次、新妻 長吉
- 永山 健太郎

決戦

十五日に

四倉草野の
開票の結果
四倉町と草野村は左の
如く四倉は武藤、花澤
兩氏の差僅かに一びよ
う、草野村は富岡、鈴木
兩氏の差五十八ひよ
うで共に八分の三の得ひ
ように至らず決戦投ひ
ように決つた、かくて

